

資金収支計算書

昭和50年4月1日から
昭和51年3月31日まで

収入の部			
科目	予算	決算	差異
1. 学生生徒等納付金収入	5,592,011,000	5,594,986,650	△2,875,500
1. 授業料収入	3,833,480,000	3,835,268,400	△1,788,400
2. 入学料収入	990,875,000	990,875,000	0
3. 実験・実習料収入	252,905,000	253,045,000	△199,500
4. 補導厚生料収入	12,465,000	12,505,000	△40,000
5. 維持拡充資金収入	502,286,000	502,457,500	△171,500
2. 手数料収入	1,118,891,000	1,126,270,300	△7,379,300
1. 入学検定料収入	1,113,377,000	1,119,820,000	△6,443,000
2. 選考料収入	400,000	504,000	△104,000
3. 再入学料収入	729,000	734,000	△5,000
4. 試験料収入	490,000	500,200	△10,200
5. 証明手数料収入	3,685,000	4,697,700	△1,012,700
6. その他の手数料収入	210,000	350,400	△140,400
3. 寄付金収入	568,103,000	583,910,052	△15,807,052
1. 特別寄付金収入	493,103,000	509,023,454	△15,920,454
2. 一般寄付金収入	75,000,000	74,886,598	113,402
4. 補助金収入	1,309,192,000	1,280,576,411	28,615,589
1. 国庫補助金収入	1,210,490,000	1,181,525,000	28,965,000
2. 地方公共団体補助金収入	98,702,000	99,051,411	△349,411
5. 資産運用収入	191,714,000	224,114,429	△32,400,429
1. 特定基本金引当特定資産運用収入	400,000,000	417,081,040	△17,081,040
2. その他の特定資産運用収入	84,000,000	77,307,061	6,692,939
3. 受取利息・配当金収入	50,000,000	91,063,542	△41,063,542
4. 貸付金利息収入	2,840,000	3,585,539	△745,539
5. 施設設備利用料収入	9,874,000	10,386,483	△512,483
6. 資産売却収入	0	321,228,696	△321,228,696
1. 固定資産売却収入	0	241,400	△241,400
2. 有価証券売却収入	0	318,814,696	△318,814,696
7. 事業収入	47,115,000	46,909,494	205,506
1. 補助活動収入	42,115,000	37,586,112	4,528,888
2. 付属事業収入	5,000,000	9,323,382	△4,323,382
8. 雑収入	540,900,000	549,069,360	△9,169,360
1. 雑収入	540,900,000	549,069,360	△9,169,360
9. 借入金等収入	1,009,700,000	909,700,000	100,000,000
1. 長期借入金収入	463,700,000	463,700,000	0
2. 短期借入金収入	400,000,000	300,000,000	100,000,000
3. 学校債収入	146,000,000	146,000,000	0
10. 前受金収入	1,504,690,000	1,571,975,650	△67,285,650
1. 授業料前受金収入	646,330,000	638,321,500	△8,008,500
2. 入学料前受金収入	718,600,000	736,895,000	△18,295,000
3. 実験・実習料前受金収入	83,610,000	421,625,000	△338,015,000
4. 維持拡充資金前受金収入	106,682,000	111,032,250	△4,350,250
5. その他の前受金収入	0	64,400	△64,400
11. その他の収入	22,560,200,000	22,79,420,614	△23,400,614
1. 特定基本金引当特定資産運用収入	0	0	0
2. 未収の特定資産運用収入	2,176,695,000	2,176,694,650	350
3. 貸付金収入	15,000,000	28,741,250	△13,741,250
4. 前期末未収入金収入	12,966,000	12,942,221	23,779
5. 預り金収入	44,000,000	56,085,253	△12,085,253
6. 前期末受取手形収入	859,000	858,655	345
7. その他の収入	0	4,098,675	△4,098,675
12. 資金収支調整勘定	△22,262,520,000	△22,293,755,665	285,065
1. 前期末未収入金	△1,330,000	△309,748	1,020,252
2. 前期末前受金	△2,176,695,000	△2,176,694,650	350
3. 前期末受取手形	0	△1,083,335	1,083,335
4. 前期末預り金	△485,000,000	△485,000,000	0
13. 前年度繰越支払資金	11,206,400	11,206,357	433
収入の部合計	120,230,650,000	123,705,991,134	△3,475,341,134

支出の部			
科目	予算	決算	差異
1. 人件費支出	50,170,410,000	48,570,828,740	1,600,581,260
1. 教員人件費支出	32,240,978,300	31,210,132,900	1,030,845,400
2. 職員人件費支出	16,499,082,900	15,980,908,430	518,174,470
3. 役員報酬支出	27,350,710	27,350,710	0
4. 退職金支出	1,160,441,700	1,106,280,310	54,161,390
2. 教育研究経費支出	14,549,351,360	12,559,199,942	990,151,942
1. 旅費交通費支出	9,581,101,800	8,183,904,420	1,397,197,380
2. 消耗品費支出	3,539,632,890	3,359,239,650	180,393,240
3. 印刷費支出	109,820,865	94,967,680	14,853,185
4. 製本費支出	5,367,200	2,850,120	2,517,080
5. 通信運搬費支出	31,893,150	30,673,889	1,219,261
6. 光熱水費支出	118,387,465	107,680,470	10,706,995
7. 補助費支出	65,187,000	45,213,120	19,973,880
8. 広告費支出	701,900	701,900	0
9. 修繕費支出	435,311,174	430,752,800	4,558,374
10. 除却費支出	799,000	612,000	187,000
11. 保険料支出	7,821,681	5,968,037	1,853,644

12. 業務委託費支出	153,404,314	147,236,991	6,167,323
13. 賃借料支出	27,910,533	27,110,533	800,000
14. 雑費支出	1,947,050	1,946,554	496
15. 諸会費支出	697,000	509,553	187,447
16. 支払手数料・報酬	1,601,074,300	1,460,132,600	1,409,417
17. 通信運搬費支出	373,500	2,741,142	98,785
18. 会議費支出	12,405,081	12,668,132	38,269
19. 雑費支出	7,669,908	6,680,920	988,988
3. 管理経費支出	233,785,000	229,962,150	408,850
1. 旅費交通費支出	11,639,460	11,234,500	404,960
2. 福利厚生費支出	8,657,118	8,415,118	242,000
3. 年金支出	15,628,375	15,658,817	5,958
4. 消耗品費支出	17,597,457	17,572,047	25,410
5. 印刷費支出	19,548,670	19,050,807	497,863
6. 製本費支出	331,190	5,586	275,330
7. 通信運搬費支出	81,438,770	7,966,658	172,719
8. 光熱水費支出	17,571,000	17,299,416	271,584
9. 広告費支出	28,029,821	27,146,395	883,426
10. 修繕費支出	19,851,954	19,710,219	141,735
11. 除却費支出	18,000	0	18,000
12. 保険料支出	1,060,225	1,058,060	2,165
13. 業務委託費支出	32,453,502	32,025,509	427,993
14. 賃借料支出	2,544,756	2,453,700	91,056
15. 租税公課支出	2,390,450	2,310,286	80,164
16. 諸会費支出	4,479,232	4,305,282	173,950
17. 支払手数料・報酬	6,729,220	6,524,627	204,593
18. 交際費支出	24,214,581	24,214,581	0
19. 会議費支出	7,189,406	7,151,806	37,600
20. 雑費支出	5,706,006	5,632,527	73,479
4. 借入金等利息支出	11,987,500	10,933,737	10,641,263
1. 借入金利息支出	11,987,500	10,933,737	10,641,263
5. 借入金等返済支出	71,674,000	71,674,000	0
1. 借入金返済支出	65,737,000	65,737,000	0
2. 学校債返済支出	5,937,000	5,937,000	0
6. 施設関係支出	867,105,000	866,772,126	332,874
1. 土地支出	643,405,000	643,147,126	257,874
2. 建物支出	5,108,960	5,101,296	7,664
3. 構築物支出	126,120,400	126,120,400	0
4. 建設仮勘定支出	160,000,000	160,000,000	0
7. 設備関係支出	374,120,864	367,026,134	7,094,730
1. 教育研究用機器備品支出	27,590,635	27,594,745	3,109,900
2. その他の機器備品支出	15,956,000	9,278,880	6,677,120
3. 図書支出	78,262,229	78,158,909	67,320
4. 車輜支出	3,893,000	3,893,000	0
5. 電話加入権支出	14,000	100,600	39,400
8. 資産運用支出	246,024,100	292,966,152	△46,942,052
1. 特定基本金引当特定資産運用支出	603,976,000	602,763,081	1,212,919
2. その他の特定資産運用支出	1,856,265,000	1,923,565,050	△67,285,650
3. 有価証券購入支出	0	403,347,798	△403,347,798
9. その他の支出	33,695,300	36,592,614	△2,897,314
1. 貸付金支出	95,000,000	91,130,000	3,870,000
2. 前期末未払金支出	146,795,000	146,794,921	79
3. 前期末預り金支出	53,158,000	53,578,717	183
4. 前払金支出	40,000,000	49,956,500	△9,956,500
5. 貯蔵品支出	2,000,000	2,823,792	△823,792
6. その他の支出	0	252,904,340	△252,904,340
10. 予備費	(101,000,000)	399,000,000	499,000,000
11. 資金収支調整勘定	△177,170,000	△409,161,268	231,991,268
1. 前期末未払金	△140,000,000	△371,011,615	231,011,615
2. 前期末前払金	△328,790,000	△337,958,414	916,844
3. 前期末貯蔵品	△2,804,000	△2,867,429	63,429
4. 前期末建設仮勘定	△1,487,000	△1,486,380	△620
12. 次年度繰越支払資金	57,937,900	97,235,231	△39,297,331
支出の部合計	120,230,650,000	123,705,991,134	△3,475,341,134

消費収支計算書			
昭和50年4月1日から 昭和51年3月31日まで			
消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
1. 学生生徒等納付金	55,920,110,000	55,949,866,650	△2,875,500
1. 授業料	3,833,480,000	3,835,268,400	△1,788,400
2. 入学料	990,875,000	990,875,000	0
3. 実験・実習料	252,905,000	253,045,000	△199,500
4. 補導厚生料	12,465,000	12,505,000	△40,000
5. 維持拡充資金	502,286,000	502,457,500	△171,500
2. 手数料	1,118,891,000	1,126,270,300	△7,379,300
1. 入学検定料	1,113,377,000	1,119,820,000	△6,443,000
2. 選考料	400,000	504,000	△104,000
3. 再入学料	729,000	734,000	△5,000
4. 試験料	490,000	500,200	△10,200
5. 証明手数料	3,685,000	4,697,700	△1,012,700
6. その他の手数料	210,000	350,400	△140,400
3. 寄付金	631,154,000	661,781,733	△30,627,733
1. 特別寄付金	493,103,000	509,023,454	△15,920,454
2. 一般寄付金	75,000,000	74,886,598	113,402

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
1. 人件費	50,170,410,000	48,570,828,740	1,600,581,260
1. 教員人件費	32,240,978,300	31,210,132,900	1,030,845,400
2. 職員人件費	16,499,082,900	15,980,908,430	518,174,470
3. 役員報酬	27,350,710	27,350,710	0
4. 退職金	1,160,441,700	1,106,280,310	54,161,390
2. 教育研究経費	14,549,351,360	12,559,199,942	990,151,942
1. 旅費交通費	9,581,101,800	8,183,904,420	1,397,197,380
2. 消耗品費	3,539,632,890	3,359,239,650	180,393,240
3. 印刷費	109,820,865	94,967,680	14,853,185
4. 製本費	5,367,200	2,850,120	2,517,080
5. 通信運搬費	31,893,150	30,673,889	1,219,261
6. 光熱水費	118,387,465	107,680,470	10,706,995
7. 補助費	65,187,000	45,213,120	19,973,880
8. 広告費	701,900	701,900	0
9. 修繕費	435,311,174	430,752,800	4,558,374
10. 除却費	799,000	612,000	187,000
11. 保険料	7,821,681	5,968,037	1,853,644

資金収支計算書は、毎年度の資金収支の状況を明らかにし、その増減の状況を把握し、今後の資金収支の計画に資するものである。昭和50年度は、前年度に比べて、収入は増加したが、支出も増加したため、繰越資金は減少した。これは、教育研究経費の増加、施設関係支出の増加、借入金返済の増加などによるものである。また、前年度に比べて、繰越資金は減少したが、これは、前年度に比べて、繰越資金の減少によるものである。昭和50年度の資金収支の状況を把握し、今後の資金収支の計画に資するものである。

消費収支計算書			
昭和50年4月1日から 昭和51年3月31日まで			
消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
1. 学生生徒等納付金	55,920,110,000	55,949,866,650	△2,875,500
1. 授業料	3,833,480,000	3,835,268,400	△1,788,400
2. 入学料	990,875,000	990,875,000	0
3. 実験・実習料	252,905,000	253,045,000	△199,500
4. 補導厚生料	12,465,000	12,505,000	△40,000
5. 維持拡充資金	502,286,000	502,457,500	△171,500
2. 手数料	1,118,891,000	1,126,270,300	△7,379,300
1. 入学検定料	1,113,377,000	1,119,820,000	△6,443,000
2. 選考料	400,000	504,000	△104,000
3. 再入学料	729,000	734,000	△5,000
4. 試験料	490,000	500,200	△10,200
5. 証明手数料	3,685,000	4,697,700	△1,012,700
6. その他の手数料	210,000	350,400	△140,400
3. 寄付金	631,154,000	661,781,733	△30,627,733
1. 特別寄付金	493,103,000	509,023,454	△15,920,454
2. 一般寄付金	75,000,000	74,886,598	113,

宇宙と生命

德山泰

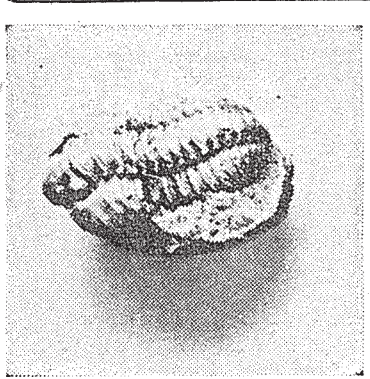
// 星間分子の発見 //

生命は宇宙に普遍的なものであり、化学進化の結果生じたものであつたといふ考えはほんの數年前まゝ人々の関心になつたように思われる。しかし一九七四年のノーベル物理学賞が電波天文学の分野に屬する英國の「マイル」と「ヘウィツシ」に与へられたことはいよいよ二十世紀後半の自然科学が宇宙と生物に焦点を合わせる時期がきたことを示唆するものとして興味深い。

これらの二はおもに一九五一年のV・フルストが発見した中性水素原子からである。二十センチ波（ 21cm ）のTV十二チャンネルはH KのTV十二チャンネルによる電波望遠鏡での観測によるものである。宇宙に最も多く存在する元素は水素であり、少量のヘリウム、酸素、炭素がこれらにつづき、ほかは非常に少ない。水素原子は陽子一個と電子一個からなる最も簡単な電離放射（電子が励起されても

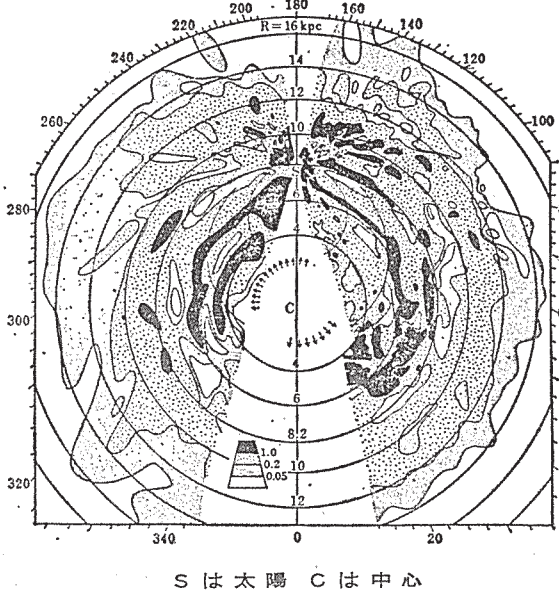
“宇宙的位置と環境”

現在わが銀河系は直徑八・九万光年（一光年は約九・五兆キロメートル）の円板状の渦巻星雲であり、夜空の天の川はその円板を横切らながながたいていその中心に、さそり座の尻尾あたりがその中心になる。中心部の厚さは一万六千光年、太陽は中心から三分の二のところにあり、その付近の厚さは五千光年で、銀河系全体には約二千五百億個の恒星があることばがわかった。



銀河系の水素分布

(『宇宙地球科学』杉本、浜田著より)



地球外生物を探す

銀河系同レベルの文明は百万？

いって意味です。

さて、ではこの星間分子と生命の起源との関係はどうかということになる。生命の発生には有機物の存在が必要なのはいうまでもないが、原田氏によるシアン化水素とアミノ酸からグリシンなどのアミノ酸や遺伝子DNA

“壮大な交信計画”

このように宇宙、地球、生命の起源について考えるときに、現代の分子生物学の最先端の成果である遺伝子情報などと宇宙での元素の起源と発達とが星の形成、生命の誕生を経て一本の糸で結ばれることが予想されるような状況

は宇宙全体では一般的なものであうに思われる。とてつもない話だが、宇宙には二千億ほどの銀河宇宙があり、我々の銀河にはまだ約二千五百億の恒星がある。そして一九五七年に始まった宇宙船の打ち上げも今では太陽系の起源、生命、人類の宇宙での生活という目

標をもち、今年夏、火星に達する米国のバイキング計画の宇宙船でも火星の微生物の存在を確認する実験装置が積込まれている。また一九六〇年に計画された「ドレイク」を長とするオズマ計画では地球外生物を探索的でエリダヌス座のβ星とタシラ座のγ星に向けて

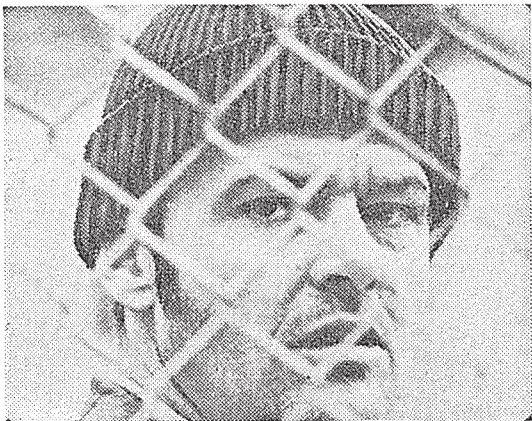
私の映画鑑賞

マーロン・ブランドとジャック・ニコルソン

私がかつとも映画に憑かれたのは戦前の中学生時代であるから、最近の人には見たこともない映画が多いだろう。この「どう行く」「望郷」「舞踏会の手帖」「旅路の果て」、ベルギー生れのフェーデは「ミモザ館」「女だけの都」などの名作を世

人間性むんむん

負
 ニコロソン
 のコリンヌは、当時のこ
 という不良少女で、私には
 すぎる不良少女であ
 るとならバリへ行っ
 ても、対独協力のかどで裁判
 にかけている間に、拘留所
 で結核のため若死にしたとい
 う小さなニュースだった。なんと
 いう馬鹿なナチに対しても不
 良少女で扱はれよいものを……
 私の戦争ぎらいの一人はここ
 あるといつてもよい。
 戦後間もなく私はデュウイ
 エやフエーデのように監督中
 常に光影と音と人物のバラン
 スが綿密に計算され、見終つて
 かうしばしば興奮の静まらない
 感動があった。その感動が失わ
 れたとすれば、私はむんむんす
 る人間を演技するブランドに魅
 かれた。スペイン王制下のメキシ
 シコの農民を指導する「革命児
 サバタ」を、ブランドが好演し
 た。サバタは野卑で教養がなく、



「カッコーの巣の上で」のジャック・ニコルソン

五月二十四日号に、久しぶりに
 毎週郵送してゐるタイム誌の
 出る。

ドは、熱帯のバラタイスといわ
 れるタヒチ島の北三十マイルの
 単に言えば組織と人間、権力と
 弱者の葛藤を扱っている。わが
 小島を入手して居を構え、一年
 国でもよくいわれる管理社会に

(社会学部教授)

新刊紹介

横田健一・網干善教編
『講座飛鳥を考える』
(創元社・一四〇〇円)

その講演録である。

本書は、万葉の飛鳥、歴史と考古学の飛鳥、東洋の中の飛鳥の三章から構成され、四年前、本学の教員・学生を中心として発掘された高松塚の被葬者論はもとより、日本の古代文化の母体である隋唐の文化や法制、邪馬台国の問題にまで及んでいる。まさに総合コース・飛鳥とまさにあはれしい。

古代史・アトムの昨今、巷に氾濫するさまざまな推理小説まがいの奇説

は本書にはみられない。学問の進歩を待ちながらユーモアあふれる話しかたで、古代へ飛鳥へと誘ってくれる。各所に挿入された写真や図版も読者の理解を助けている。歴史・文学の専攻者にとっては必読の書であるが、広く古代史に興味のある方々に一読をすすめたい。ゼミナールの合宿などで研究所を利用する場合に、本書が有益で便利などといふまでもない。

（上井久義）



配置)やサクロプロス計画(口徑百呎のを千五百呎を十平方呎の円内に配置)を立案し、その建設費は六十―百億が(三兆円)にも及ぶという。もしもこれが実施されれば宇宙人の消息に接するところ出来るかも知れないし、そのようなことが少しでもあれば地球文明にものすごい刺激を与えるだろうが、もしそれが失敗に終わっても、この計画から様々な新しい宇宙知識が得られるだろう。C・サガンによれば銀河系に生命の生じうる適当な惑星が千億あるとするならば、その中現在の地球と同じ技術

夏休みを控えて何かと忙し
い上に、とうとういし長雨が統
きます。

風疹の流行など学生諸君も
保健管理センターを利用する
機会が増えることでしょう。
本局の紹介が参考になればと
思います。

足立利雄委員の社会学部
長選出に伴い、池田進教授
(社)が新たに広報委員にな
りました。また経済学部の
森岡孝二委員が大塚忠講師と
交臂されました。